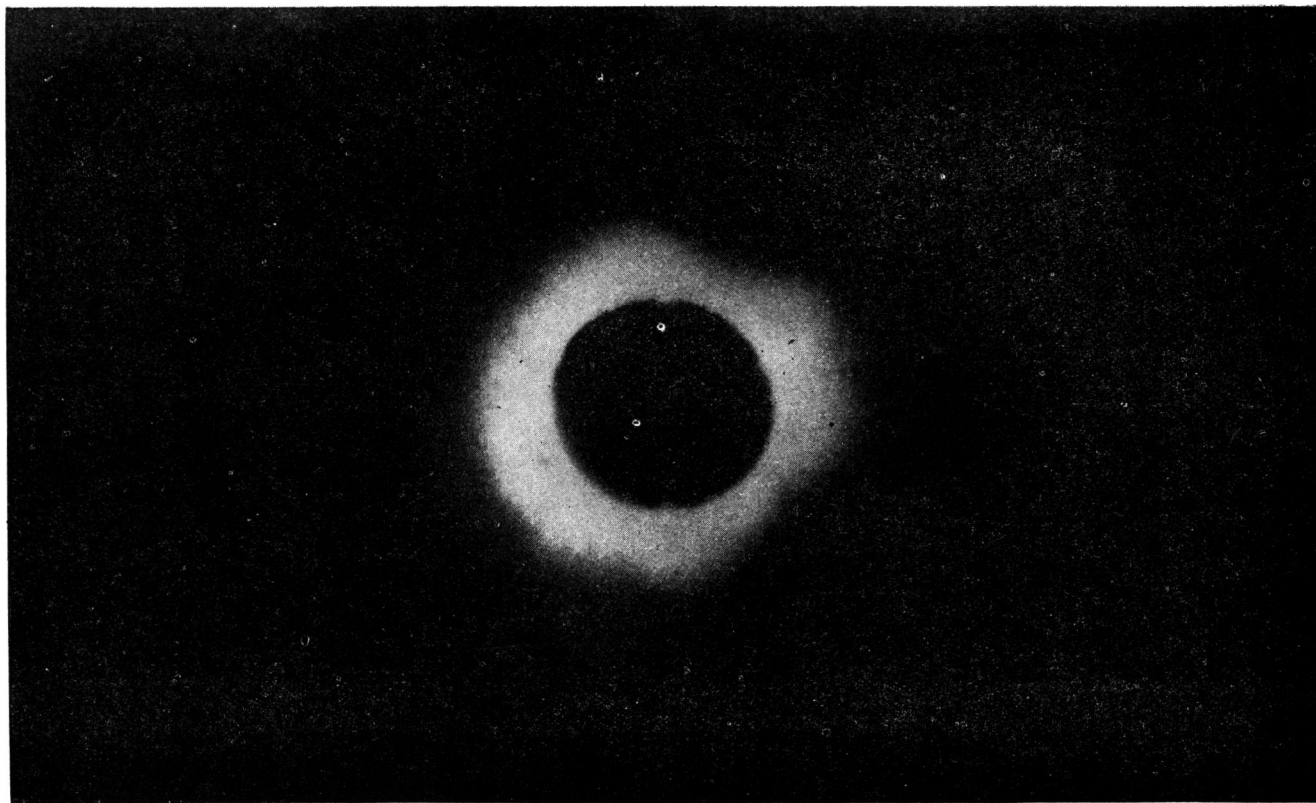


去る 6 月 29 日の皆既日食

既報の如く、去る 6 月 29 日に日食があつて、梅雨であつたに拘らず、我が日本では、京都でも、東京でも、奉天でも、札幌でも、まづ無事に接觸時刻の觀測が出来た。英國やノルウェー國では此の日に皆既日食が見え、殊に英國では之れが 200 餘年ぶりの珍しいものであつたため、よほご以前から、人々は大變な意氣込みで待つてゐたものである。皆既食が見えた場所は Wales の北端から、北部 England の Lancashire 郡、Yorkshire 郡、Durham 郡あたりであつたが、愈々其の日食の前日は London から其の他の土地からも、此等の地帯へ臨時列車が増發されるやら、陸續自動車の列がつづくやらで大騒ぎ、又此の前夜は、London 市中でも、夜中、店を開けて、開關以來例の無いはしやぎかたを、gentlemen も ladies もやつたこいふことであるが、之れは無理も無い話であつて、日食は此の 29 日の午前 5 時 23 分から、同じ 5 時 25 分まで云ふ極端な早朝に行はれたのであるから、平生の朝ね坊をやつてゐては、とても間に分はなかつた筈である。

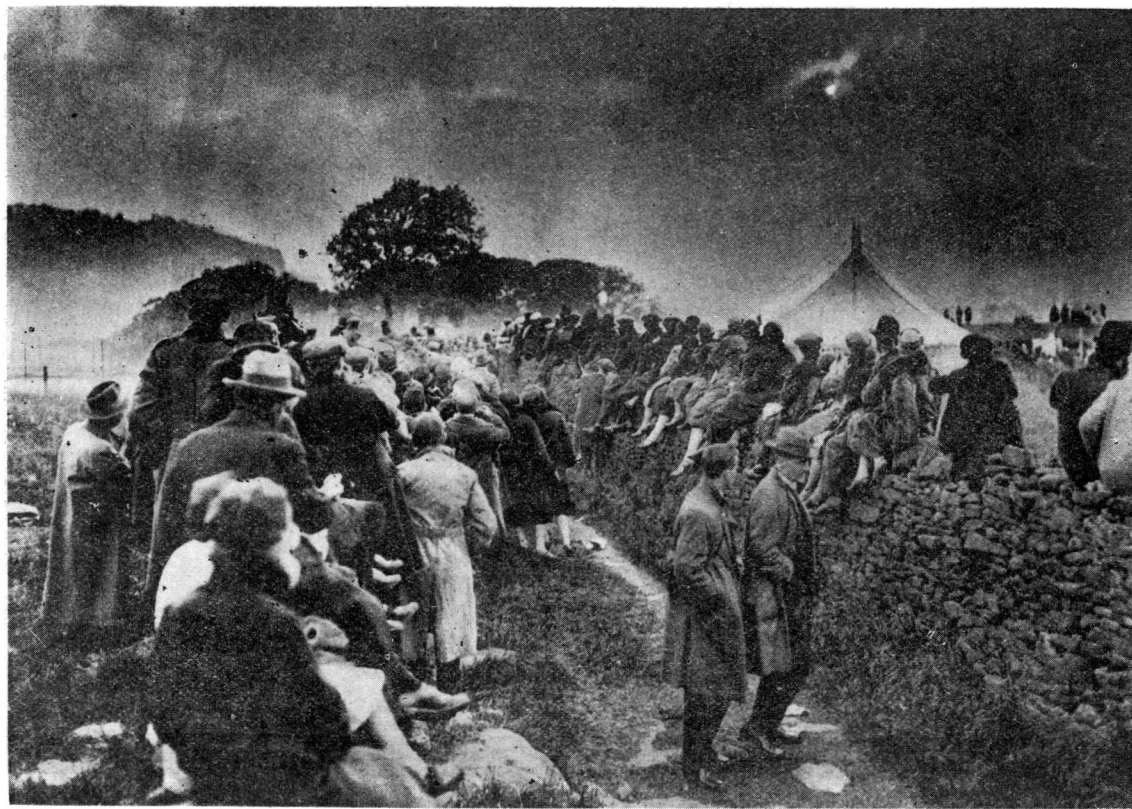
さて、専門の天文學者たちは如何に言ふに、之れ等は勿論數年前から種種調査や準備をした結果であつて、まづ Ireland 海の岸にある Southport 町には Oxford の大學から Turner 教授と、Radcliffe 天文臺の Knox-Shaw 博士とが仲好く聯合して機械を据ゑ付け、次ぎに、ちよご居ながら皆既食の見える Stonyhurst 學院では O'Conuor 師等有りだけの望遠鏡を用意し、Yorkshire 郡では Giggleswick の小學校庭に 4 週間も以前から Greenwich 天文台の大小の器械が据ゑられてゐた。(但し、御大 Dyson 博士は多忙のため、29 日の未明に London から此の觀測場へ馳け付けたこいふ。)それから尙ほ東北の Gilling や東岸の Hartlepool にも觀測者が居た。更に、海を越えてノルウェー國では、Ringeber に Oslo 大學の Vegaard 教授等が陣を張り、Aal には態々英國 Cambridge 大學天文臺から出張した Newall 博士等の一隊や、米國 L. McCormick 大學の Mitchell 博士の團隊が居、又、北方の Jokkmokk にはドイツ國 Bergedorf 天文臺の觀測隊が望遠鏡を列べて居た。

ところが、いよいよ日食の日は英國もノルウェーも天氣は一體に悪く、殊に英國は大部分が雨と曇りで、學者も民衆も大に失望した。只、天祐か、Giggleswick では皆既の頃 5 分間ばかり太陽が雲の切れ目から見えたので、Jackson 氏は案外にも 21 秒間曝寫の見事な Corona の寫眞を撮ることが出来た、又、Southport でも雲の間から可なりの寫眞を撮つたこいふ。ノルウェーでは Aal に居た人々は皆雲のために失敗し、只、Ringeber と Jokkmokk まででは好成績を得たこいふ。(次頁の寫眞を見られよ)



去る6月29日の日食の寫眞

英國では200年來の皆既日食だとして永い前から待ち設けられてゐた此の日食も、天氣惡のため殆んど何所も皆駄目であつたが Gilglesswick に陣取つた Greenwich 隊だけは不思議に天が5分間ばかり晴れ、其の間に此んな立派な寫眞が撮れた



去る6月29日の早朝英國 Giggleswick で日食皆既を見てゐる群集